

授業科目名	文化産業論	担当教員	李 知映
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年第3クォーター		
講義内容	<p>「文化」は、経済とは相容れないもの、と考えられがちである。しかし、歴史的に見ても、文化は常に経済的なパトロンを必要としてきた。近年では、経済活動に対する芸術文化の貢献への関心も高まるなど、文化と経済との関係には多様な側面が見られる。文化産業における文化概念は、狭義の芸術ジャンルのみならず、広告、建築、デザイン、各種メディア、ゲーム、ソフトウェアなどを包括する。本講義においては、芸術文化と産業・経済の複雑な関係について、文化産業論以外に、文化政策学や文化資源学等も利用し、その歴史や理論等を多角的にみていきたい。</p>		
到達目標	<p>① 芸術文化と経済・産業の複雑な関係について、その歴史や理論を踏まえて多角的に理解する。  ② 日本社会、とりわけ地域経済の持続可能な発展のために、文化産業論の観点から、芸術の創造・発信、流通・雇用・消費（マーケット）、そしてコミュニティ形成（再生）の諸問題について、その全体像を具体的にイメージし、新たな価値創造の提案ができるようになる。</p>		
授業計画	<p>① イントロダクション  ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明  文化とは何か  ・「文化」概念の成立と変容を把握し、文化産業論が扱う領域を概観</p> <p>② 文化経済とは  ③ 文化政策の根拠  ④ 文化芸術と経済  ⑤ 資本としての文化  ・文化産業論や文化資本論、知識産業論、クリエイティブ産業論などの考え方を把握し、資本主義経済と文化の関係を考察</p> <p>⑥ 文化産業  ・アドルノとホルクハイマーなどの議論から考察</p> <p>⑦ 文化産業と地域社会  ⑧ 創造産業、クール・ジャパン  ⑨ 創造都市とは  ⑩ 現代文化としての観光・地域社会／小テスト  ・現代の消費文化としての観光を、J.Urry「観光のまなざし」やS.Zukin「Authenticity」などの議論から考察する</p> <p>⑪ グループワークの研究調査に基づく報告会（1）  ⑫ グループワークの研究調査に基づく報告会（2）</p>		
事前・事後学習	<p>配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。</p>		
テキスト	<p>特になし。</p>		

参考文献	河島伸子 『コンテンツ産業論－文化創造の経済・法・マネジメント－』 (ミネルヴァ書房、2009) 河島伸子、生稲史彦編著 『変貌する日本のコンテンツ産業－創造性と多 様性の模索－』 (ミネルヴァ書房、2013) など。 必要に応じて授業中に紹介する。授業のなかで関連資料を配布すること もある。
成績評価 の基準	成績はプレゼンテーション (1回: 30%) と小テスト (1回: 20%) や授 業への参加度・積極性等 (50%) による総合評価。
履修上の注意 履修要件	特になし。
実践的教育	該当しない。
備考欄	グループワーク・発表の場合、履修者によって個人ワーク・発表になる可能性 ある